

各地で伝統の秋祭り

「九鹿ざんざか踊り」「ねっぴいずもう」など奉納

10月11日、県の無形民俗文化財に指定されている「ねっぴいずもう」が奥米地水谷神社で奉納されました。これは、祖霊を鎮めるための神事です。今年改築したばかりの本殿の前で、氏子二人が袴をはいて向き合い、「ヨイ、ヨイ、ヨイ」と掛け



力強くねっぴいずもうを奉納

声をかけながら力強くしこを踏みました。最後に、相手の首を抱え込んで3回飛び上がって回り元の位置に戻ると、集まった観衆から大きな拍手が送られました。

17日には、同じく県の無形民俗文化財に指定されている「九鹿ざんざか踊り」が同区の日枝神社で奉納。約150人の観衆が見守る中、「ザンザカザットウ」の掛け声と太鼓に合わせて息の合った舞を披露しました。

公民館を出発した一行は、村中で舞を披露しながら神社へ移動。境内に用意された踊り場で、子ども4人の迫力ある踊りが披露された後、大幣や太鼓を担いだ村人たちが、太鼓の音色と歌に合わせて優雅に舞いました。



優雅に舞う九鹿ざんざか踊り

「養父市民のつどい」が10月8日、ビバホールで開催されました。このつどいは、暴力追放、少年非行防止、交通安全の三つをスローガンに掲げ、安心して暮らせるまちづくりをしようと開かれたものです。

防犯と交通安全に功労のあった方々への表彰の後、オリックス・ブルーウェーブゼネラルマネージャーの中村勝弘氏の講演があり、プロ野球の合併問題などの興味深い話に、参加者のみなさんも熱心に聞き入っていました。

最後に大会宣言を読み上げ、住み良いまちづくりへの決意を新たにしました。

安心して暮らせる住み良いまちを 養父市民のつどいで決意新たに



紅葉の山々を楽しむ参加者

紅葉の山々を満喫 氷ノ山・鉢伏山紅葉登山大会を開催

秋日和に恵まれた10月17日、15回目を迎える氷ノ山・鉢伏山紅葉登山大会が氷ノ山と鉢伏高原一帯で行われました。この登山大会は、兵庫県最高峰の氷ノ山(標高1510m)と鉢伏山(同1221m)を中心に四つのコースを設定。登山上級者から家族向けのコースに総勢554人が挑戦しました。

氷ノ山ブン廻しコースは、東尾根から氷ノ山山頂、氷ノ山越えを経由して八チ高原に向かう健脚向きのコース。スタートして最初の難関の東尾根では、「思っていたよりきつい」などの声も聞かれましたが、参加者それぞれが自分のペースで登山を楽しみ、赤や黄など色鮮やかに色づいた木々を眺めながら、大自然を満喫していました。



防犯・交通安全功労者への表彰